

# Osaka Metro まちさんぽ

長堀橋駅

60分  
コース

堺筋線・長堀鶴見緑地線 長堀橋駅

石浜と銅吹所の長堀橋

船場と島之内、  
長堀川沿いに東へ西へ

江戸時代に東横堀川から木津川へ東西に掘られた川が長堀川で、北側が船場で南側が島之内。船場で高いに励む商人たちが長堀川をミナミへ渡ると、職人街の向こうににぎやかに音曲はじける茶屋街がありました。



- | スタート駅   | 約 60 分           | ゴール駅    |
|---------|------------------|---------|
| 堺筋線     | 1 長堀石濱 (モノユメント)  | 心斎橋駅    |
| 長堀鶴見緑地線 | 2 長堀川            | 長堀鶴見緑地線 |
|         | 3 油掛地藏尊          | 御堂筋線    |
|         | 4 板屋橋跡パネル        |         |
|         | 5 島之内・鰻谷         |         |
|         | 6 住友銅吹所跡         |         |
|         | 7 ビリヤード場 元住友家本邸内 |         |
|         | 8 中橋             |         |
|         | 9 三休橋            |         |
|         | 10 心斎橋・心斎橋筋      |         |
|         | 11 佐野屋橋跡パネル      |         |

ちかごろはすっかり聞けなくなったのが「なにわ言葉」といわれる柔和な大阪弁。船場商人が使った船場言葉と茶屋で交わされた島之内言葉です。浪花千栄子さんの言葉が最後の島之内言葉だといわれています。ほな、ぼちぼちいきまひよか。

長堀橋駅  
60分  
コース

# Osaka Metro まちさんぽ

堺筋線・長堀鶴見緑地線 長堀橋駅

石浜と銅吹所の長堀橋

## 船場と島之内、長堀川沿いに東へ西へ

江戸時代に東横堀川から木津川へ東西に掘られた川が長堀川で、北側が船場で南側が島之内。船場で商いに励む商人たちが長堀川をミナミへ渡ると、職人街の向こうににぎやかに音曲がはじける茶屋街がありました。

スタート駅

約 60 分

ゴール駅

堺筋線・長堀鶴見緑地線長堀橋駅(2-A)(2-B)号出口

御堂筋線・長堀鶴見緑地線心斎橋駅

### 1 長堀石濱 (モニュメント)

江戸時代、長堀川から大坂市中へ諸国の物産が陸揚げされました。心斎橋西側の佐野屋橋あたりには石屋が集まり、摂津の御影石、播磨の立山石、泉州の和泉石、紀伊の大崎石などが山積みされ、石灯笼や石鳥居、石臼、水鉢などが売られて、石屋浜と呼ばれました。モニュメントがクリスマス長堀東端にあります。



### 2 長堀川・長堀橋記念碑

伏見から移住した岡田新三(心斎)、三栖清兵衛、池田屋次郎兵衛などの商人が、寛永2年(1625)に小川を拡幅して東横堀川と木津川を直結する長堀川を掘削し、海から船場南部への物流が容易になって、川筋に住友の銅吹所、石屋浜、材木浜が連なっていました。明治になって役割を終えて、戦後の道路整備で次第に埋め立てられました。江戸時代に長堀川に最初に架けられた橋が堺筋の長堀橋で、記念碑が建てられています。



### 3 あぶらかけ 油掛地藏尊

戦災で焼失した明善寺の境内にあった地藏尊が焼け残りました。地藏尊を信仰していた遊女が抱え主から体に油を注がれて折檻されたときに身代わりになってくれたという話、地藏尊に油をかけたら子どもの病気が治癒したという話などが油かけのいわれとして語られています。長年の油かけで黒光りしていますが、いまは油かけをせずに祈ります。



### 4 板屋橋跡パネル

ここに架かっていた橋は元禄の頃から新橋と呼ばれていましたが、幕末になって板屋橋と呼ばれるようになりました。川沿いに板材を扱う店が集まっていたのかもしれない。歩道に顕彰パネルが立っています。



### 5 うなぎだに 島之内・鰻谷

島之内は長堀川と道頓堀川、東・西横堀川に囲まれた場所です。長堀川沿いには河川物流を利用した職人街が形成されましたが、南部は道頓堀の芝居街の影響を受けて茶屋が軒を連ね、船場の「商いどころ」島之内の「粋どころ」といわれました。鰻谷は、『摂津奇観』に鰻を連想させる細い谷間のような地形だったと書かれています。



### 6 住友銅吹所跡

江戸時代、大坂の堀川沿いに多くの銅吹所(精錬工場)が集まり、その中で最大規模を誇ったのが泉屋(住友家)で、高い技術を有して日本の約1/3の銅を精錬していました。元和9年(1623)に内淡路町に銅吹所を開設。その後、寛永13年(1636)にこの長堀に移転し、明治まで続けました。

### 7 元住友家本邸内 ビリヤード場

明治9年(1876)銅吹所廃止後に住友家の邸宅となり、明治12年(1879)には洋館や庭園がつくられ、ビリヤード場も建てられました。擬洋風様式で、玄関のアーチや円柱は洋風ですが壁は土蔵造り、屋根は瓦葺きの和風です。

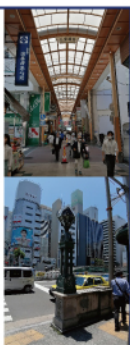
### 8 中橋 9 さんきゅう 三休橋

中橋は長堀橋と心斎橋の中間にあったことから名前がつけました。南北の筋は中橋筋と呼ばれ、中橋の親柱が中央分離帯に据えられています。また、長堀川に架かる心斎橋、中橋、長堀橋の人通りが混雑するので「3橋を休ませるために」架けられた橋を三休橋と呼んだそうです。



### 10 心斎橋・心斎橋筋

心斎橋は、道頓堀川を開発した岡田心斎が架橋したといわれる橋で、当時は長さ35m、幅4mの木橋でした。界隈は書店・出版業が並んで、井原西鶴『諸艶大鑑』、上田秋声『兩月物語』、頼山陽『日本外史』などのベストセラーが出版されています。明治になってドイツから輸入した鉄橋になり、さらに石橋時代はガス灯や石の欄干が復元されています。



### 11 佐野屋橋跡パネル

ここには江戸時代初期から佐野屋橋という木橋が架かり、川沿いには各地の特産石が浜を埋め、石の灯笼や石の狛犬、石臼なども並び、石屋浜と呼ばれていました。顕彰パネルが長堀通歩道に立っています。



文中の「おおさか」表記には、一般呼称や明治以降については「大阪」、江戸時代以前については「大坂」を使っています。なお、掲載している情報は2024年5月時点のものです。内容は変更されている場合があります。

発行: Osaka Metro

協力: 一般社団法人大阪あそ歩委員会 (お問い合わせ先) 大阪あそ歩 info@osaka-asobo.jp

後援: 歴史街道推進協議会

このコースや他のコースの(ガイド付きまち歩き)については、下記の「大阪あそ歩」のホームページをご覧ください。

<https://www.osaka-asobo.jp> または  で検索

#### ご注意

※まち歩きには歩きやすい服装で、足下や車などの往来に十分注意し、事故のないように各自で責任をもって行動してください。

※プライバシーにかかわる場所での写真撮影や大声での談笑はご遠慮ください。住宅敷地内での写真撮影は厳禁です。

#### ご案内

※駅スタンプは駅室付近に設置しています。参加記念にぜひ押印してください。

#### 駅スタンプ押印欄



毎月第1金曜日発行